

東北地方 1か月予報

(7月24日から8月23日までの天候見通し)

平成16年7月23日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

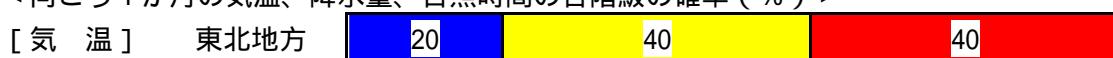
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

太平洋高気圧に覆われ平年に比べ晴れの日が多いですが、期間の後半には寒気や前線の影響で天気のぐずつく時期があるでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並か高い、降水量は平年並か少ない、日照時間は平年並が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は高い、2週目は平年並か高い、3～4週目は平年並でしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



低い(少ない) 平年並 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



低い 平年並 高い

<予報の対象期間>

1か月 : 7月24日(土)～8月23日(月)

1週目 : 7月24日(土)～7月30日(金)

2週目 : 7月31日(土)～8月6日(金)

3～4週目 : 8月7日(土)～8月20日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は7月30日

3か月予報：8月25日(水) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	23.1	155.2	169.0	22.8	23.4	23.2
新庄	24.2	156.0	185.9	24.0	24.5	24.2
若松	25.0	128.3	205.8	25.0	25.3	25.0
深浦	23.3	147.6	190.9	23.1	23.6	23.4
青森	23.2	118.9	194.5	23.0	23.7	23.3
むつ	21.8	118.5	159.8	21.5	22.2	21.9
八戸	22.5	120.4	181.6	22.3	22.9	22.6
秋田	24.7	162.0	202.6	24.6	24.9	24.8
盛岡	23.5	158.9	164.9	23.5	23.8	23.5
宮古	22.3	145.6	172.1	21.9	22.6	22.4
酒田	25.2	154.9	219.0	25.0	25.4	25.2
山形	25.0	132.5	189.7	25.0	25.3	24.9
仙台	24.2	147.2	158.9	23.9	24.5	24.3
石巻	23.5	106.7	180.7	23.1	23.6	23.7
福島	25.4	129.8	164.3	25.4	25.8	25.4
白河	23.5	192.2	159.0	23.5	23.8	23.5
小名浜	23.7	112.5	196.8	23.2	23.7	24.0

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはあります。下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5~+0.6	75~122	90~110
東北日本海側	-0.6~+0.5	77~114	91~113
東北太平洋側	-0.4~+0.6	70~125	89~112

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.5~+1.1	-0.7~+1.2	-0.5~+0.7
東北日本海側	-0.6~+1.0	-0.8~+1.1	-0.5~+0.8
東北太平洋側	-0.5~+1.3	-0.6~+1.3	-0.5~+0.8

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、それぞれの階級が実際に起こると予想される割合を表しています。信頼性の大きい予測資料が得られた場合には気候的出現率(階級の定義から各階級とも同じで33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、信頼性が小さい場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成16年7月23日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(7月24日~8月23日):

太平洋高気圧に覆われ平年に比べ晴れの日が多いですが、期間の後半には寒気や前線の影響で天気のぐずつく時期があるでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

1週目(7月24日~7月30日):

高気圧に覆われ晴れの日が多いですが、期間の中頃は気圧の谷の影響で東北北部を中心に曇りの日があるでしょう。

平均気温は高いでしょう。

2週目(7月31日~8月6日):

太平洋高気圧に覆われ平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

3~4週目(8月7日~8月20日):

太平洋高気圧に覆われ平年と同様に晴れの日が多いですが、寒気や前線の影響で天気のぐずつく時期があるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

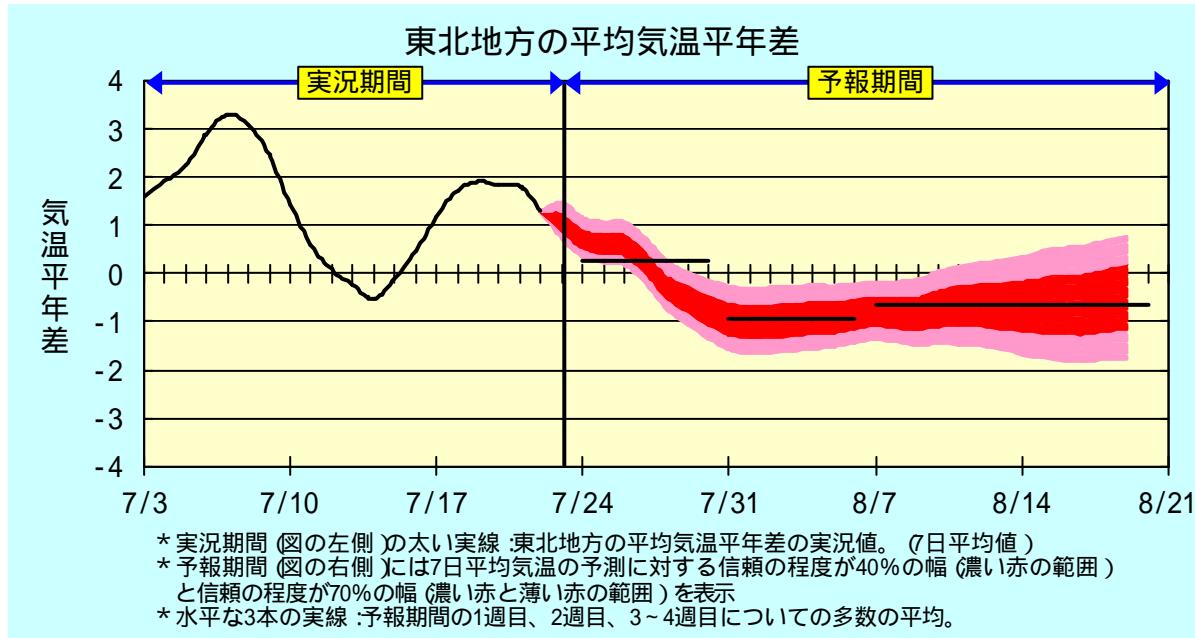
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	16.7日	4.2日	3.9日	8.6日
東北太平洋側	14.9日	3.7日	3.7日	7.5日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目を「平年並」、2週目、3~4週目を「低い」と予想している。しかし、数値予報モデルは太平洋高気圧の軸が北に偏り日本付近に強く張り出す場合に、日本付近の気温を低めに予想する傾向がある。予報は、その他の資料から1週目を「高い」、2週目を「平年並か高い」、3~4週目を「平年並」とする。

なお、数値予報の信頼度は小さい。

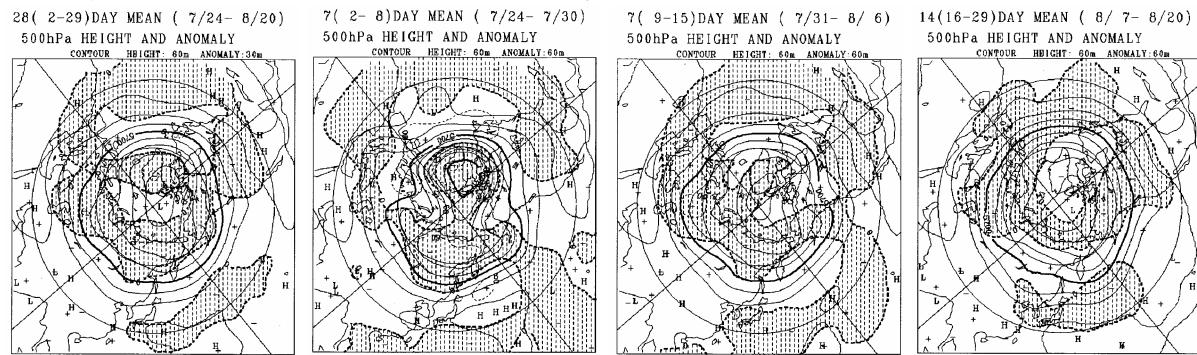


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、極東域の高緯度や日本の南は負偏差となるが、日本付近はユーラシア大陸から広がる帶状の正偏差に覆われる。

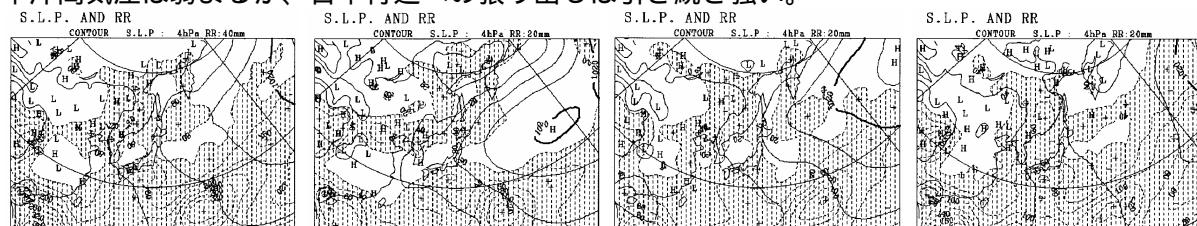
1週目は、日本付近は正偏差に覆われ、亜熱帯高気圧も強い。2週目は、本州以南は負偏差に覆われるが、北日本はユーラシア大陸から広がる正偏差に覆われる。3~4週目は、朝鮮半島から日本付近を通り日付変更線付近にかけて負偏差に覆われ、日付変更線付近に気圧の谷が見られる。ただし、2週目以降は予想のばらつきが大きい。



地上気圧と降水量：

月平均では、太平洋高気圧が北日本を中心に平年より強く張り出す。日本の南海上は熱帯擾乱に対応するまとまった降水域が見られ低圧部となるが、割り引いて考える。

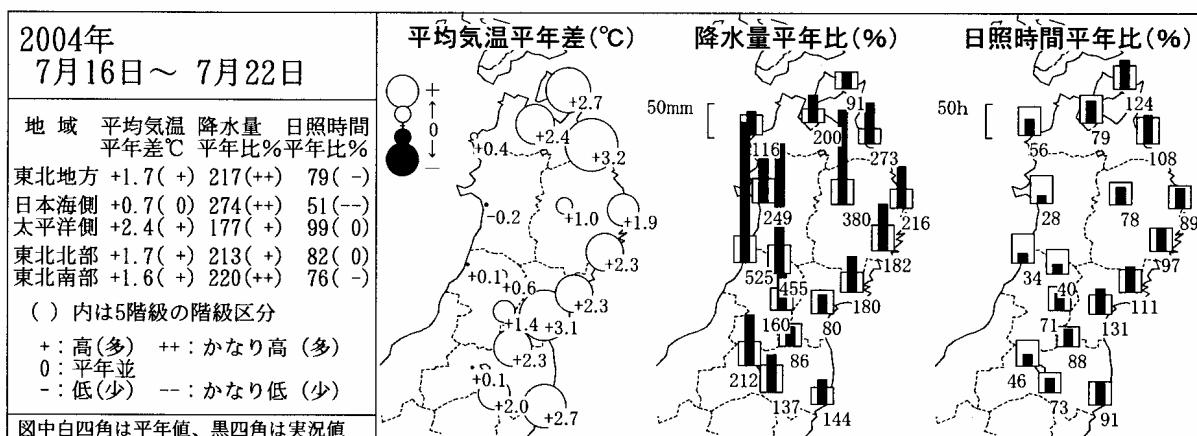
2週目にかけて、太平洋高気圧が日本付近に強く張り出す。3~4週目は、日付変更線付近で太平洋高気圧は弱まるが、日本付近への張り出しが引き続き強い。



4. 最近1週間（7月16日～7月22日）の天候の経過

期間の中頃まで、梅雨前線が北陸から東北地方に停滞し、曇りや雨の日が多くなった。特に、17日は梅雨前線の活動が活発化し、秋田県と山形県では大雨により土砂崩れや浸水などの被害が発生した。期間の終わりには梅雨前線が南下し、次第に高気圧に覆われた。なお、東北北部、南部共に22日頃に梅雨明けしたと見られる。

平均気温は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で高い。降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。日照時間は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で平年並。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)